

大北スポーツ競技会剣道競技 試合方法詳細（2026年度版）

ア 試合は、全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則及び本大会の申し合わせ等により行う。

イ 団体戦の種別は以下のとおりとする。（申込書の「種別」の箇所に次の種別①～③を記載すること）

○小学生団体戦

① 小学生の部（1年生～6年生でチーム編成。オーダーにおいて年齢順は問わない。）

② 小学生3年生以下の部（1年生～3年生でチーム編成。オーダーにおいて年齢順は問わない。）

○中学生団体戦 ③ 中学生の部（中学1年生～3年生でチーム編成）

ウ 団体の編成において、1市町村での編成が困難な場合は、市町村団体の責任者の調整により、合同での

編成を可能とする。その場合、チーム名は（◎◎市・○○村）とし、市、町、村の順に表記する。

エ 試合はA:切り返しとB:1本勝負の2試合を行う。

A：切り返しの詳細

切り返し……正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち、

以上2回繰り返す、最後に正面打ちを1本加える。

先鋒から順に対戦チーム同士元立ち・掛かり手を交互に行い、切り返しが終わったら判定を行う。

これを先鋒から大将まで行う。

B：1本勝負の詳細

1本勝負……切り返しを先鋒から大将まで終えた後、1本勝負を行う。

1本勝負は1分とし、勝敗の決しないときは引き分けとする。

勝者の決定：切り返しと1本勝負の勝者数、総本数の順により決定する。同数・同本数の際は、切り返
しで勝ったチームを勝ちとする。（1本勝負での勝ち本数は1本とする。）

オ 申し込みチーム数により、リーグ方式またはトーナメント方式を決定する。

※総合評価の着眼点

ただ速く動作ができているかではなく、「気剣体一致」の動作で行っているかを見る。

- ①剣道具・剣道着・袴の着装ができているか。
- ②正しい蹲踞ができているか。
- ③竹刀の持ち方は正しいか。
- ④しっかりと手首（刃筋）を返し、伸び伸びと大きな切り返しができているか。
- ⑤切り返しの際、左こぶしが左右に動いていないか。

※切り返しの留意点

- (ア) 竹刀の振り方は正しいか。
- (イ) 足の運びは正しいか（退き足が歩み足にならないか）。
- (ウ) 左右面を打つ角度が、約 45 度になっているか。
- (エ) 「正面打ち」のとき、一足一刀の間合から打っているか。
- (オ) 竹刀の打突部で、打突部位を正しく打っているか（元立ちは左右面を必ず竹刀で受けること）。
- (カ) 「左右面打ち」のとき、左こぶしが正中線を通り相手の見えるところまで上がっているか。
- (キ) 「正面打ち」のとき、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心（みぞおち）に納まっているか。
- (ク) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。

※元立ちの留意点

- (ア) 相手の竹刀を受け止める際、弱すぎたり、強すぎたりして竹刀を押し返したり、切り落としたりしないように受けること。
- (イ) 相手が後退する際、歩み足にならないように適切な間合いを保つこと。
- (ウ) 相手の勢いに合わせて後退するなど、相手の動きを妨げず、むしろ引き立てるような動きをする。